

# 愛知県感染症情報

平成 11 年第 47 週 ( 11 月第 4 週 )

( コメント )

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、インフルエンザ、水痘が増加しています。

感染性胃腸炎も増加していて、定点当たり 4.4 人の報告がありました。11 月 30 日から愛知県衛生研究所のホームページ ( <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken> ) を開設しました。愛知県感染症情報も、12 月 8 日から見るができます。

( 先生方からのコメント )

- ・ マイコプラズマ肺炎 3 才  
( 田原町 かわせ小児科 )
- ・ 保育園で感染性胃腸炎で半数欠席ありました。  
( 豊橋市 大谷小児科 )
- ・ ロタウイルス (+) 1 才 6 ヶ月女  
( 岡崎市 小児科延寿堂杉浦医院 )
- ・ 先週の 7 才女児異型肺炎は、マイコプラズマ抗体 2560 x でした。  
( 岡崎市 医療法人深田小児科 )
- ・ カンピロバクター 4 才女  
( 岡崎市 にいのみ小児科 )
- ・ サルモネラ腸炎 0-9 1 才男  
( 岡崎市 医療法人川島小児科水野医院 )
- ・ 手足口病が散発しています。  
( 幸田町 とみた小児科 )
- ・ 溶連菌感染症年長児・学童で急増です。  
( 蒲郡市 鈴木小児科医院 )
- ・ カンピロバクター 9 才女  
( 刈谷市 まついこどもクリニック )
- ・ 高熱を主訴に来院した 6 症例に B D ディレクティジェン Fl u A ( 簡易インフルエンザ A 型ウィルス検出キット ) を使用し検査したところ、陽性 2 例、陰性 4 例でした。陰性 4 例中 2 例 ( 4 才男児と 3 才女児 ) は 5 日以上の高熱が持続しました。  
( 豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック )

- ・ 溶連菌感染症姉妹例（6才、4才）再燃例（6才男）あり、流行中。  
ヘルペス歯肉口内炎 3才女。水痘が再び目立ってきました。  
その他流行性耳下腺炎、突発疹等散発  
（尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院）
- ・ 麻疹患者（2名）あり院内感染と考えられます。  
（瀬戸市 津田こどもクリニック）
- ・ サルモネラ腸炎姉弟例あり。EB ウイルス感染症4例つづきました。  
（尾張旭市 旭労災病院）
- ・ 溶連菌感染の流行が続いています。  
（小牧市 志水こどもクリニック）
- ・ マイコプラズマ肺炎 1例ありました。肺炎桿菌(+)1例ありました。  
（春日井市 かちがわ北病院）
- ・ A型インフルエンザ（ディレクティジェン Fl uAで陽性）流行中  
（津島市 田中こどもクリニック）
- ・ マイコプラズマ肺炎2名（8才男、14才男）、感染性胃腸炎、ロ  
タウイルス性胃腸炎が増えてきました。  
（立田村 医療法人谷本医院）
- ・ サルモネラ 12才男  
（師勝町 師勝クリニック）
- ・ インフルエンザ様疾患が流行しはじめた様です。疾患報告を「イ  
ンフルエンザ様疾患」として、血清反応などで確認出来たケース  
を特にインフルエンザと報告しては如何か。  
（西春町 中村内科医院）
- ・ インフルエンザ A型7名（男2名、女5名）  
検出方法はB Dディレクティジェン Fl uAです。  
（尾西市 城後小児科）
- ・ 11/17 10才女 高熱持続5日間。インフルエンザ HI A型 H3N2上  
昇あり(512倍)  
咳、喘鳴を伴う症例が多いです。  
（一宮市 あさのこどもクリニック）
- ・ A群溶連球菌感染症、感染性胃腸炎（嘔吐を伴う）が相変わらず流行中。  
ヘルペス口内炎 1才女  
（江南市 みやぐちこどもクリニック）

- ・ 水痘、手足口病、感染性胃腸炎、ムンプス目立つ。  
(岩倉市 なかよしこどもクリニック)

(1~3類感染症の発生状況)

- 細菌性赤痢患者 1 名。  
春日井保健所から報告の 63 才女。11/16 発病、11/19 初診、11/24 診定。菌型は、ゾンネ 相 ミャンマー渡航歴有り。
- 細菌性赤痢菌保有者 2 名。
  - ・ 知多保健所から報告の 21 才女。11/10 発病、11/18 初診、11/26 診定。菌型は、フレキシネル 6。
  - ・ 一宮保健所から報告の 28 才女。11/19 発病、11/19 初診、11/24 診定。菌型は、ゾンネ 相 インド渡航歴有り。
- 腸管出血性大腸菌患者  
半田保健所から報告の 9 才女。11/17 発病、11/19 初診、11/24 診定。菌型は、0-157 VT1、VT2(+)

(全数把握の 4 類感染症の発生状況)

- 後天性免疫不全症候群患者 1 名。
- 急性ウイルス性肝炎患者 1 名。
- ツツガムシ病患者 1 名。
- レジオネラ症患者 1 名

第 45 週 (11 月 8 日 ~ 14 日) の 4 類感染症の全国状況

感染性胃腸炎は定点当たり 4.21 (先週 3.03) であり急増している。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ムンプス、マイコプラズマ肺炎などはやや増加傾向にある。麻疹は定点当たり 0.01 (先週 0.01) と変化はないが、成人麻疹の報告が 2 例あった (過去 4 週間報告なし)。インフルエンザは定点当たり 0.10 (先週 0.09) とやや増加している。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋)

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

パキスタン南部で小児感染症調査をしてきました。熱帯の花が咲き、相変わらずポリオ患者が発生する気温 35 の毎日から帰り寒さに震えています。いつも貴重な情報を有難うございます。遅くなりましたが 10 月後半 - 11 月前半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：大きな集団カゼの流行はありませんが 11 月に入って鼻水や咳、発熱を伴う咽頭炎などの上気道炎や感冒に伴う嘔吐下痢症の小発症が各地区で見られています。一部地区ではロタウイルスの入院例が目立っていますがロタ陰性の軽症の急性胃腸炎や学童の嘔吐症の散発が主体で、気道感染症としては気管支炎・細気管支炎マイコプラズマを含む肺炎もぼつぼつ来院し、こうした感染症に誘発された喘息性気管支炎や喘息発作も目立っています(名鉄病院宮津先生、第一日赤有吉先生、国立病院松下先生、城北病院渡辺先生、第二日赤岩佐先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生、中京病院柴田先生、労災病院山田先生、大同病院水野先生)。溶連菌感染症、川崎病、ブ菌性火傷様皮膚症候群、膿痂疹などの散発が続く(名鉄・宮津先生、第一日赤有吉先生、城北・渡辺先生、第二日赤岩佐先生、千種区今枝先生、三菱・岩間先生、労災・山田先生、大同・水野先生)、ムンプス(国立・松下先生;院内感染例とワクチン接種後髄膜炎例あり)、ウイルス性髄膜炎(城北・渡辺先生)、細菌性腸炎(第二日赤岩佐先生;0-157 で HUS 合併例あり同胞内感染、三菱・岩間先生、労災・山田先生)、百日咳(三菱・岩間先生、労災・山田先生)などのお手紙が目につきました。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からは感染性胃腸炎散発、咽喉頭炎がやや多い、津島市民病院長田先生からはロタウイルス腸炎(新生児)の入院 1 例あり、江南市からは溶連菌感染症とムンプス散発中でマイコプラズマ肺炎らしいあり(昭和病院丸地先生、愛北病院水谷先生)、岩倉市永吉先生からはムンプス、手足口病の小流行と単純ヘルペスウイルスの口内炎目立つ、瀬戸陶生病院山口先生からは麻疹の入院 1 例(流行には至っていない)、溶連菌感染症とマイコプラズマ肺炎少数例、常滑市民病院肥田先生からは特に目立つものはない、市立半田病院中島先生からは水痘が目立つとのお手紙でした。

3. 三河地区：豊田地区では上気道炎に誘発された喘息発作が目立ち、水痘とムンプスが散発、麻疹 1 例、3 ヶ月児の RS ウイルス感染入院例あり(トヨタ病院原先生、竹内病院梶田先生)、岡崎市民病院系洲先生からは川崎病 4 例入院(前回の 6 月を含め川崎病には流行がある)、安城更生病院小川先生からはムンプスやや増加、肺炎と喘息性気管支炎、気管支喘息がやや多い、知立市近藤先生からは溶連菌感染症とカンピロバクター腸炎が各 1 例、感冒性下痢症がパラパラあり、刈谷市田和先生からはムンプスが一部保育園で多発し幼児～学童で 2-3 日発熱する感冒が散発、手足口病 1 例、碧南市永井先生からは仮性クループが目立つ、豊橋市宮澤先生からはヘルペス口内炎、突発疹、細菌性腸炎、気管支肺炎などの少数例あり、とのお手紙でした。有難うございました。(文責 磯村)

1999 年 10 月 1 日号(74 巻 39 号)

2000 年接種インフルエンザワクチン組成:2000 年 5-10 月、南半球の冬期の接種ワクチン。99 年 4-9 月の流行株は一部地区の B 型を除き A 型 H3NI で抗原性は昨年度までとほぼ同一でありワクチン接種後の抗体獲得も良好。ワクチン組成として A 型 H3N2 モスクワ/99、A 型 H1N1 ニューカレドニア/99、B 型北京/93 又は B 型山東/97 ないし類似の各株を WHO として推奨。

感染地一覧:ペスト、コレラ、黄熱について全世界の国、地方単位の常在地一覧表。

集団発生:イラクのポリオ。5 月 10 日以来 16 例(1 型野生株)。16 例の確認例のうち 9 例は遊牧民で 11 例がワクチン未接種ないし不完全接種。

9 月 24-30 日届出。コレラ:香港、インド、イラク。ペスト:モンゴル。

1999 年 10 月 8 日号(74 巻 40 号):未着。

1999 年 10 月 15 日号(74 巻 41 号)

ワクチンの安全性:ワクチン接種後の副反応が重視され WHO は専門家集団による勧告委員会(Vaccine Advisory Committee)を召集、99 年 9 月 14-15 日に初会合が開かれた。アルミアジュバント含有ワクチン筋注後の局所反応(マクロファージ性筋・筋膜炎、MMF)に関する検討:現行ワクチンの選択、接種方式などに変更の必要はない。但し今後の検討は必要である。

世界のペスト:97 年における常在地世界地図と 83 年 - 97 年の届出数と死亡数の国別年別一覧表。97 年における届出国数は 14 カ国、患者届出数 5,419 例(死亡 274 例)。94 年に比し増加。地域的にはアフリカが多く(マダガスカルが世界最多、コンゴ、マラウィ、タンザニア、モザンビーク)、南北アメリカ(米合衆国では西部各州で毎年発生。ボリビア、ペルー)、アジア(中国では雲南と西域、インドネシアのジャワ島東部、カザフスタンとモンゴルの牧夫、ベトナムとミャンマーの穀倉地帯)。

サルモネラ(*S.typhimurium* DT104):カナダ。最近増加中の多剤耐性菌。ブリティッシュコロンビア州の 97 年 8 月 - 98 年 7 月の分離例 64 例。男女差なく年齢は他のサルモネラでは <1 歳が最多であるが DT104 では 1-4 歳最多。分離株の 1 株を除き耐性菌で 62%が 5 剤以上に耐性。食品、その他については不詳。

インフルエンザ:99 年 9 月。ブラジル、カナダ、チリ。

集団発生:米合衆国のウイルス性脳炎。9 月上旬ニューヨーク。臨床診断はセントルイス脳炎。ウイルス学的検査結果から西ナイル熱と判明。確定例 50 例。鳥の検索中。

9月10-16日届出。コレラ:チャド、シェラレオネ、スリランカ。  
1999年10月22日号(74巻42号)

ポリオ根絶:ネパール、96-99年。2000年根絶を目標としたネパールの状況。

(1)定期接種:WHOへの報告では<1歳のポリオ生ワクチン3回接種率は97年81%、98年83%であるが98年の75州のうち60州の実態調査では全国で70%、南部地区で60%、北部山村で79%であった。

(2)全国一斉接種日:毎年12月-1月。周辺各国と同時に実施。<5歳。接種率は97%(96年)、96%(97年)、95%(98年)。

(3)急性弛緩性麻痺報告:98年に全国の報告網発足。月別、週別の定点と担当者による症例検討定点の三種の定点で全国を把握。99年では人口10万当たり2.4(増加中)。

(4)99年、急性弛緩性麻痺患者の79%から便材料2回採取、88%が60日間追跡。

(5)ポリオ確定例97年12例(野生株1)、98年31例(0)、99年18例(0)。

集団発生:ルワンダの髄膜炎。9月10日-10月6日、29例(死亡11)。2例からCPとAMPC感受性髄膜炎球菌分離。推定4万人が感染リスクあり政府、WHO、ユネスコがワクチンと抗生剤搬入し流行は消褪。

アンゴラの髄膜炎菌髄膜炎。8月-9月、A群髄膜炎菌髄膜炎が流行。年齢は18-25歳、253例(死亡147)。

10月15-21日届出。コレラ:ペルー、インド。ペスト:モザンビーク、ペルー。